

さとにきたら ええやん

上映会

監督・撮影：重江良樹 音楽：SHINGO★西成 プロデューサー・構成：大澤一生（『隣人』『フリーダ・カーロの遺品―石内都、織るように』） 編集：辻井潔（『隣人』『イラク チグリスに浮かぶ平和』）
音響構成：渡辺文彦（『ルンタ』『妻の病 レビイ小体型認知症』） 制作協力：神吉良輔（ふとっちょの木）、五十嵐美穂、上田昌宏、吉川諒 機材協力：ビジュアルアーツ専門学校大阪 特別協力：小谷忠典
助成：文部科学省文化芸術振興費補助金 企画：ガーラフィルム 宣伝・配給協力：ウッキー・プロダクション 製作・配給：ノンデライコ 2015 | 日本 | 100分 | カラー | 16:9 | 5.1ch | DCP

日雇い労働者の街・釜ヶ崎で38年間続く子どもたちの集い場「こどもの里」――。
人情が色濃く残る街の人々の奮闘を描く、涙と笑いあふれるドキュメンタリー！

日時：令和 8年 2月 1日（日）14:00～16:30

場所：鶴瀬コミュニティセンター ホール

定員：200名（事前申込） 参加費：無料



いつでもおいでや。 子どもも大人も集まるみんなの“さと”



大阪市西成区釜ヶ崎。“日雇い労働者の街”と呼ばれてきたこの地で38年にわたり取り組みを続ける「こどもの里」。“さと”と呼ばれるこの場所は、障がいの有無や国籍の違いに関わらず、0歳からおおむね20歳までの子どもが無料で利用することができます。学校帰りに遊びに来る子、一時的に宿泊する子、様々な事情から親元を離れている子…そして親や大人たちも休息できる場として、それぞれの家庭の事情に寄り添いながら、地域の貴重な集い場として在り続けてきました。本作では「こどもの里」を舞台に、時に悩み、立ち止まりながらも全力で生きる子どもたちと、彼らに全力で向き合う職員や大人たちに密着。子どもたちの繊細な心の揺れ動きを丹念に見つめ、子どもも大人も抱える「しんどさ」と、関わり向き合いながらともに立ち向かう姿を追いました。



わたしはあんたの味方やで! ^{いま}現在、求められている“居場所”の原風景



「こどもの里」の取り組みを通して、画面いっぱいにあふれ出る子どもたちや、釜ヶ崎という街の魅力を捉えたのは、大阪在住の重江良樹監督。「こどもの里」に関心を抱き、関わり、取材を始めてから足かけ7年、いま、初監督作品として本作を完成させました。音楽は地元・釜ヶ崎が生んだヒップホップアーティスト、SHINGO★西成。ストレートで飾らないメッセージの中に、街で生きる人々への熱い思いが詰まったSHINGO★西成の楽曲が、生きることそのものを力強く肯定し、映画全体をあたたく包み込みます。めまぐるしく移り変わる現代社会のなかで、子どもたちを巡る環境も急激に変化している今、あらためて注目されている「こどもの里」の“取り組み”が、これからを歩む私たちに問いかけるものとは——？

「こどもの里」とは？

1977年設立の「子どもの広場」を前身とし1980年に現在の場所で「こどもの里」を開設。以後、子どもたちの遊び場であると共に、各家庭のケースに応じた短中期的な宿泊機能、長期的な養育をおこなう里親としての機能を持つ。

こどもたちの 遊びと学び 生活の場です

誰でも利用できます。
こどもたちの遊びの場です。
お母さん お父さんの休息の場です。
学習の場です。
生活相談 何でも受け付けます。
教育相談 何でもききます。
いつでも宿泊できます。
緊急に子どもが一人ぼっちになったら…
親の暴力にあったら…
家がいやになったら…
親子で泊まる場所がなかったら…
土・日・祝もあいてます
利用料はいりません



参加ご希望の方は、電話または右のフォームよりお申し込みください。
(お申し込み期限：1月28日（水）まで)

☎ 子ども未来応援センター：049-252-3774（受付時間 平日8:30-17:15）

主催：富士見子ども・若者の居場所応援ネット・富士見市（子ども未来応援センター）



<https://forms.gle/W9Parhd1zf42KeaaA>